

## 第2期長期モニタリング計画・気象に係るモニタリング調査について

## 1. 気象観測の目的

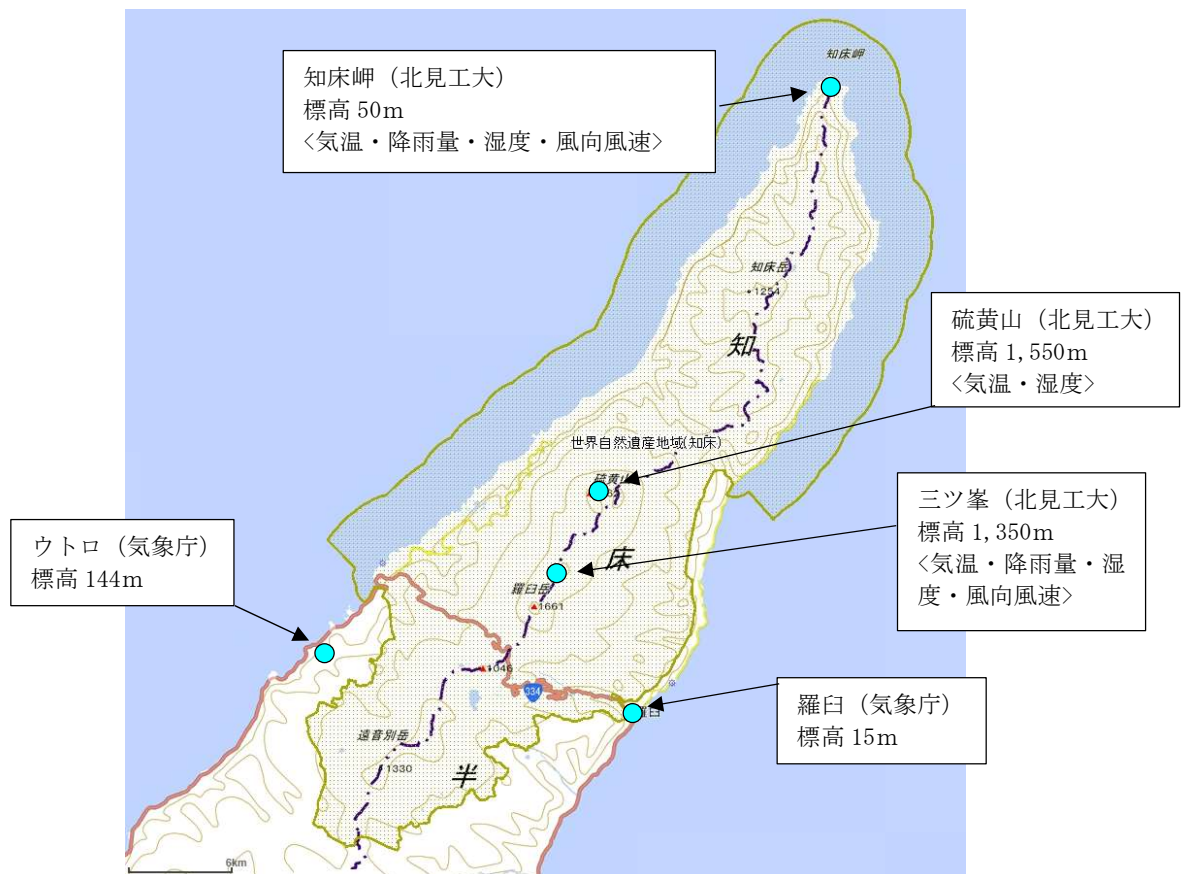
- ・気候変動に伴う遺産価値への影響検討に資するため、第2期長期モニタリング計画に位置づけたモニタリングとして気象観測を実施するもの。

## ■第2期長期モニタリング計画・気象に係るモニタリング項目（評価項目D）

評価の対象	環境圧力（状態・動向）	
評価の観点	知床の世界自然遺産としての価値に対する環境圧力の影響は見られるか	
評価項目	D：遺産地域における気候変動の兆候はみられるか	
モニタリング項目	<b>No. 27：知床半島における気象状況の把握</b>	<b>No. 28：代表的な植生域での気象状況の把握</b>
評価基準	長期的に見たときの変動幅を逸脱しているか	長期的に見たときの変動幅を逸脱しているか
評価指標	気温、降水量、海面水温、海水期間	地温、地表温、融雪時期
モニタリング手法	気象庁及び北見工業大学による観測結果を活用	主な植生モニタリング調査区内に設置したロガーによる観測

## 2. 気象観測地点

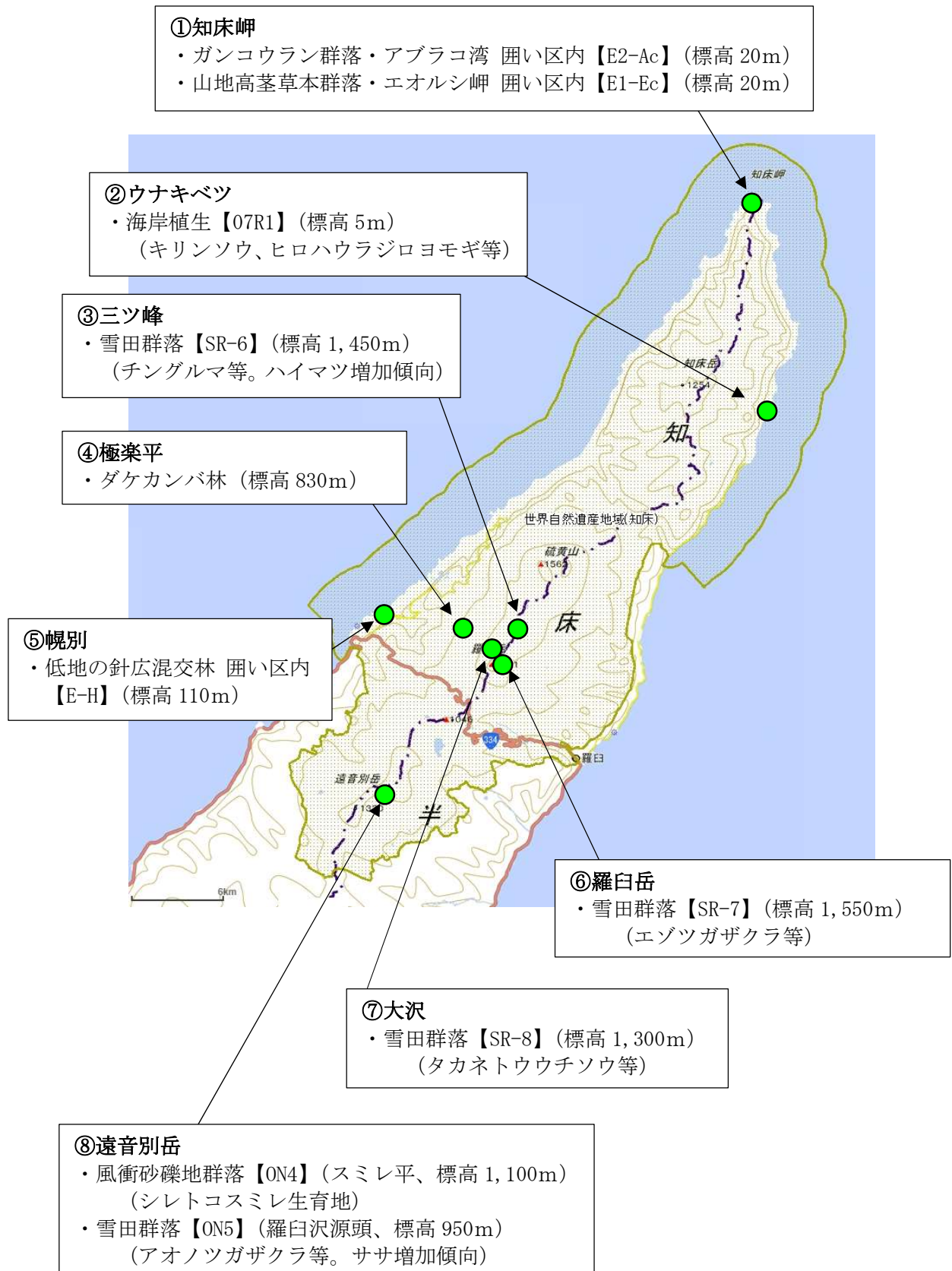
## ■No. 27：知床半島における気象状況の把握



※流氷は網走市にて観測（気象庁）

■No. 28 : 代表的な植生域での気象状況の把握

(環境省事業として地温、地表温を観測)



※【 】内は植生モニタリング調査区名

### 3. 羅臼岳山頂付近での気象観測について

#### 【2022 (R4) 年度の経緯】

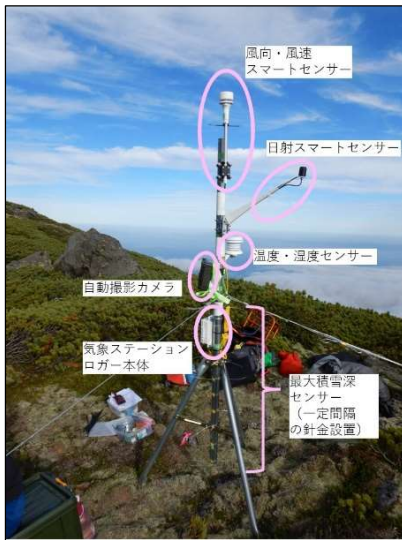
- ・遺産地域における気候変動の兆候を把握するための基礎データ収集を目的として、気候変動の影響がより顕著に現われると考えられる高山域にて気象観測を開始

◇観測開始日…2022 (R4) 年 9 月 8 日

◇観測項目……気温、湿度、雨量、日射量、風向、風速、積雪深、定点カメラ

- ・観測開始後、約 40 日後に再登山し動作確認を行った際、ステーションが倒壊していることを確認（定点カメラのデータによると設置の数日以内に倒壊）
- ・その際、使用不能となった風向風速センサー及び定点カメラをのぞき、復旧

■設置状況



■倒壊状況



■復旧状況



#### 【2023 (R5) 年度の経緯】

- ・7月11日に現地確認を行った結果、中央ボールが折れ曲がり、観測機器が周辺に散在している状況を確認
- ・残っていたデータを解析した結果、昨秋の10月14日に風向風速計、11月6日に日射量、11月10日に気温・湿度計と、順次機器が停止したことが判明
- ・原因は、ワイヤーに氷が張り付いて肥大化し強風を受けてワイヤーが切断した可能性や、過冷却水滴がどんどん着氷した際にモーメントがかかり支点部分で折れ曲がり強風で振動して破断（WG 委員や有識者ご意見）と推定
- ・8月12日に現場からすべての機器を撤去

■倒壊状況



#### 【今後の方針】

- ・環境省事業として高山域での観測継続は困難と判断。
- ・今後は、No. 28「代表的な植生域での気象状況の把握（地温・地表温）」を長期的に実施しつつ、気象全般の観測については気象庁や北見工業大学の観測データを活用